



これから 1 年間仮園舎住まい

大変長らくお待たせしました。仮園舎完成の遅れで、3月末に予定していた引越しを、運送会社と交渉の結果、何とか4月5日を確保し、全職員1日掛かりで引越しを終えたところでした。そこで、始園式や入園式の準備をするために、例年より1週間遅い開始としました。子どもたちや保護者の皆様には、1か月の長い春休みとなり、大変なご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びいたします。

さて、1カ月振りに元気な子どもたちの声が園庭に戻ってきました。旧園舎に張り出した学級名簿を、親子で一喜一憂しながら、“どの学級かな？”“担任は誰かな？”“仲良しの友達はあるかな？”という思いで見つめる新年度の光景は、本幼稚園の風物詩のようでもあります。私が、初めてこの光景に接した時、まるで、有名校の合格発表を見るような感じでした。自分の名前が読める子どもたちは、自分の名前を探し、新しい学級、クラスの友達、担任の先生が分かると、安心したのか新しい学級へ駆け出していきました。保護者の皆様も安堵した様子でした。

旧園舎で入園式を済ませ、真新しい仮園舎に移動しましたが、保護者の方や職員の感想は、「思ったよりも明るくてきれい」「年少さんの教室は、旧園舎の教室よりも広い」「年少教室のスライディング・ウォールもいい」「トイレや教室内の手洗いもきれい」の声が聞かれ、仮園舎の方が素敵であるといった感想が大半でした。いかに、旧園舎が老朽化していたかということでしょう。兎に角、雨の心配をせずに済むこと、明るくてきれいなところは、今のところ快適です。初めて2階で過ごすことになる年長さんは、眺めがよいのに満足していたようです。

これから1年間、新園舎建築を楽しみにしながら、仮園舎で生活をしていくこととなりますが、生活をしていくうちに、行事や活動で、使いづらいところや困ったことが出てくると思います。その時は、臨機応変に対応し、子どもたちが楽しいと思えるように工夫していきたいと思えます。



うちの子はどの組かな？

80人の新しいお友だち、ようこそ



前日の雨が嘘のように晴れ、暖かな春の日差しを浴びた18日に、72名の年少さん、8名の年中さんの新しい友達を迎えて、入園式を行いました。今年は、式の最中に、泣いたりぐずったりする子どもがいなくて、比較的静かな雰囲気の中で、来賓の方や私の話を聞くことができました。これまで見てきた幾つかの保育園や幼稚園の入園式に比べて、とても落ち着いていたように思いました。おそらく、大半が、たんぽぽ学級に在園していたことや弟妹児として幼稚園で遊び、教職員の顔を知っていたからだと考えられます。学級では、担任の先生から、早速、読み聞かせや明日からの幼稚園での過ごし方などの話を聞き、幼稚園を大いに気に入ってくれたようです。

入園式翌日からの2日間は、新入園児がなるべく早く幼稚園に慣れるようにすること、興味を持つようにすることなどのいろいろな意味があって、新入園児のみの登園となっています。子どもたちは園庭や百年の森、響流の森で楽しい時を過ごしました。入園式で話した『4つの約束』をしっかり守っているかのようで、みんな仲良く遊び、あちこちで、「これ貸して？」「いいよ！」の声が聞かれ、嬉しく思いました。

桜満開の日の園庭開放の風景

今年が一部見納めになる桜を名残惜しむかのように、大勢の人が来てくださいました。新園舎の関係で、正門から4本の桜が伐採されるようです。



♪桜、桜、今咲き誇り♪